

筆者に送られた。筆者も最近、羅生門の現地で、その生育状況をみた、羅生門は周囲が20m位の石灰岩壁で囲まれた狭い区域で空中湿度が非常に高い。この風化しかけた石灰岩壁にしたたる石灰水中に垂れ下つている。体には石灰分が沈澱している。孢子体は見当らない。羅生門産はヨーロッパ産の標本と比較すると、岩壁について垂れているためか、莖は細長くのびて葉が疎生している。

Specim. exam. C.-Honshu: Nagano Pref. Todaigawa, Shiroyiwa (ca. 1200m, on limestone) (M. Takaki, Aug. 13, 1950). W.-Honshu: Okayama Pref. Niimi-shi, Rashōmon (ca. 500m, hanging from wet limestone ledge) (Ch. Iki, Sept. 19, 1950 & Aug. 23, 1953, A. Noguchi, Nov. 2, 1954). Dist. Eur. Siberia.

106) **Leptodontium gracillimum** Nog. in Journ. Jap. Bot. 20: 142 (1944).

この種は台湾新高山の標本にもとずいて設けられたのであるが、遙かはなれた秩父の石灰岩地帯でも採集されたので報告する。採集者は服部植物研究所の清水大典氏で、標本は不実である。台湾産と比較すると、秩父産は葉細胞は多少大きいようである。

Specim. exam. C.-Honshu: Saitama Pref. Chichibu, Ōtaki-mura, Hakutaizan-Akazawadake (1700-1800m, limestone region) (D. Shimizu, Aug. 28, 1952). Distr. Formosa.

This species is new to Japan.

□Cain, A. J.: **Animal species and their evolution** Hutchinson's University Library (London) 1954 出版。著者はオクスフォード大学の動物分類の demonstrator 「種」なる範疇について論じ、biological species が最も抱えるべきものとする点で Mayr や Simpson に通ずる。polytypic species と種の分化なども論じている。動物の事例が植物を扱う吾々に少々判りにくいことを除けば一読の価値あり。pp. 190. 8s 6d. 470円見当 (前川)

□Hubbard, C. E.: **Grasses** Pelican Book 叢書の一つ。1954. 9 月出版。英国所産の禾本科についての図鑑兼解説書。一頁大の図と対面になった解説に記載や分布を掲げるが、語源や人文的なことには触れず。外に科の総論、検索表、形質全況、莖葉及び果実による三通りを用意し、利用殊にローンについて記す。帰化植物は日本と多く共通でありまた欧亜に分布する周北要素も屢々あるから参考とするに足りる。pp. 428. 3s 6d. 200 円見当 (前川)

□今西錦司: **ヒマラヤを語る** 白水社 1954. 12 月出版 1952 版年のマナスル偵察の紀行と其他の若干の記事、公式のでない気のおけない紀行は親しみが持てるし、ヒマラヤの深さと高さや広さを巧みに記す。植物帯を日本のそれと比較したのも理解を助ける。pp. 228. ¥ 260 (前川)

□Johnson, A. I. & H. A. Smith: **Plant names simplified** W. H. & L. Collingridge Ltd. (London) 1951 出版 増訂2版 シダ以上の主な属についてその名の発音、極めて簡潔な一行解説、語源説明は割に親切、主な種名にも発音と語源を附記、欧米での野生品と温室を含む栽培品が主、科名が付けてないのは少々不便。 (前川)

□湊正雄: **後氷期の世界** 築地書館 1954. 6 月出版 バルト海の周辺に明らかな氷期とその後の古地史から説き起して、日本での氷期以後古地史や種の分化などを解説的に述べたもの。北海道で得たデータが骨になつている。日本の第四紀の編年表(第6表)はその結論、これだけはつきりとしたものはなかつただけに分布論や種の進化を扱う人は見逃がしてはすまされない。pp. 219. ¥ 280. (前川)